

園外活動安全マニュアル

1. 目的地の選定

- ・子どもの心身の発達に見合った目的地、経路、時間を選定する。
- ・道路事情により、より安全な経路を選択する。
- ・当日の天候や状況、職員の人数等によって目的地の変更や戸外活動を行わないなど検討する。



2. 準備・個々の子どもの体調を把握する。

- ・子どもの衣服が活動にふさわしいか確認する。(フードや裾が広がったものは危険なので 望ましくない)
- ・散歩に出かける前にはオムツ替えを行う、またはトイレへ行く。
- ・車いすを使う場合はタイヤの空気が抜けていないか、破損部分がないか、確認する。
- ・帽子をかぶっているか、靴が履けているか確認する。子ども自身で靴を履いた時はマジックテープがしっかりとまっているかを確認する。
- ・散歩リュック(救急セット、ゴミ袋、水筒、紙コップ、ティッシュペーパー、オムツ、着替え 1 セット、タオル、)とケータイを持っていく。
- ・指示系統を明確にし(散歩リーダーを決める)、余裕を持った体制を取る。



3. 移動中

- ・列の安全を把握し、危険のないよう列の前後や間に職員がつくようにする。
- ・車道側に職員がつく。歩道では展示ブロックの内側を歩く。信号は道の内側で待つ。
- ・職員同士危険を知らせあう声掛けを積極的に行う。

4. 目的地

- ・危険物やゴミが落ちていないか、活動前に確認し撤去する。(特にガラスや陶器の破片、タバコの吸い殻等)
- ・子どもの心身の発達段階を踏まえ、安全に留意して目的に合った活動を行う。
- ・公園や児童館の遊具を活用することで、子どもたちの普段の動きでは使わない力を使い、「バランス感覚」「筋力」「柔軟性」「協応動作」「空間認知力」などの力を培う。
- ・危険箇所、遊べる範囲、遊具の使い方やマナーなどを職員同士で確認し、目的地に着いたら子どもたちにも伝える。
- ・職員は立ち位置や役割を決め、連携を取りながら業務にあたる。(リーダー: つねに全体を見渡す。サブリーダーはリーダーをサポートして動き全体の把握し、荷物の準備 等を行う。)
- ・特に 未就学児は、誤飲に関しゴミのみでなく小石や枝葉等の自然物にも留意する
- ・水分補給は、気候も踏まえこまめに行う。
- ・不審者がいないかつねに目を配る。疑わしい人がいた場合速やかにその場を離れ、必要に応じて110番通報をする。

5 その他必要な配慮

- ・児童の人数確認を確実に行う。

①出発時、②目的地に到着してから 15 分毎、③目的地から出発する際、④事業所に到着したら、は最低でも必ず行う。

- ・出発後やむを得ず行き先や経路を変更する場合は事業所に連絡を入れる。

- ・散歩の時間は職員の誰かしらが事業所に残り、緊急時の対応ができるようにしておく。

6.園外での事故の対応

- ・職員は、当該園児への応急処置・救命処置を行う者、他の児童の安全確保にあたる者、事業所に連絡を行う者に分かれて対応する。

- ・状況に応じ、事業所に残る職員に応援を頼んだり、速やかに事業所に戻る。

- ・事業所で連絡を受けた者は、状況に応じて 119 番通報や保護者へ連絡したり、応援へ駆けつけたりする。

- ・事故報告書を作成する。

- ・速やかに事業所で会議を行い、散歩先の再検討も含め事故前後の分析をする。安全が確保できるまで散歩の中止も検討する。

